

## 会 議 議 事 録

事業名	平成 27 年度 第 1 回 教育課程編成委員会
学校名	学校法人 新潟総合学院 新潟デザイン専門学校

会 議 名	第 1 回教育課程編成委員会会議
開 催 日 時	平成 27 年 6 月 19 日 (金) PM 16:30 ~ PM 18:30
会 場	新潟デザイン専門学校 1F 講義室
出席者	<p>加藤 一人 (新潟デザイン専門学校学校長)</p> <p>新保 悟 (ジャムルクルー株式会社 代表取締役社長)</p> <p>高田 哲雄 (文教大学 教授)</p> <p>渡辺 淳一郎 (株式会社アイディ・東和 取締役営業部長)</p> <p>齋藤 秀一 (NPO 法人 アジアクラフトリンク 理事長)</p> <p>明間 芳規 (株式会社アイ・シー・オープロモーション 代表取締役社長)</p> <p>畑野 裕美 (教務部長/デジタルデザイン科学科長)</p> <p>齋藤 佳彦 (事務局長)</p> <p>小林 敏哉 (写真デザイン科学科長)</p> <p>吉富 克弥 (雑貨ジュエリー・デザイン科学科長)</p> <p>永井 啓司 (グラフィックデザイン科学科長)</p> <p>田中 圭 (イラストレーション科学科長) (出席者 12 名)</p>
欠席者	<p>宝福 大志 (キャラクターイラストデザイン科)</p> <p>平出 恭子 (美術・工芸デザイン科) (欠席者 2 名)</p>
会議内容	<p>(1) 学校長挨拶 学校長加藤より職業実践専門課程について及び教育課程編成委員会設置についての趣旨説明・役割の重要性についてなどを話し、開会挨拶とした。</p> <p>(2) 本日の出席者紹介 学校長より本校委員が紹介された。 企業等委員より自己紹介が行われた。</p> <p>(3) 本校の現状報告 学校長加藤より、学校方針/教育目標/教育実績/運営報告等の説明がされた。</p> <p>(4) 新規申請学科の説明 学校長加藤より新規申請学科の説明を行った。イラストレーション科学科長田中より、産学連携を中心に現状報告された。</p> <p>(5) 本校カリキュラム・教育実績報告 (コンテスト入賞・進路決定報告・産学連携報告など) について各学科から前年度実績報告と現行報告がされた。</p> <p>①デジタルデザイン科 (畑野学科長)</p> <p>②グラフィックデザイン科 (永井学科長)</p>

③雑貨・ジュエリーデザイン科（吉富学科長）

④写真デザイン科（写真科）（小林学科長）

（6） 質疑応答・意見

新保：インターンシップについて：学生の傾向はどうか。参加に積極的・消極的か。

畑野：気持ち的にめげてしまう学生も近年多く学生フォローも必要であるが、企業に出る前の心構えを持たせ、気持ちを強くするカリキュラムや研修も必要ではないかという前回のご意見を頂き、今年度は1年次1学期より就職実務授業を導入して、ビジネスマナーや一般常識の学習を通して就職や仕事を身近に考えられるように工夫した。また、働くということを改めて考えるキャリアデザインの導入部分を1年次の研修内容に取り入れた。結果や効果は今後報告を行う。

齋藤：売れるデザインについて考えられるようになってほしいと思うが、学校の授業として組み込んでいくことはなかなか難しいと思うので、産学連携やインターンシップを活用してもっと経験を積んでほしいと考える。

高田：検定試験と学生の制作力について：合格している学生の傾向はどうか。

田中：専門分野に関する検定については、知識の確認としても各検定試験の合格を目標に設定するのは大事な事であるが、合格しても制作力が乏しいケースや不合格でも制作力は高いケースもあり、検定だけで能力を判断するのは難しいようにも見える。ただ、ビジネス系の検定に関しては、就活力的な部分の確認ができ、個別指導の際の参考としても有効である。

渡辺：コンテスト等へのモチベーションについて、クラスや選択科目単位で取り組んでいけるモチベーションについて、仕事をイメージした制作工程にもなっているので、今後も続けて欲しい。単に制作するだけではなく、受賞や採用を目標にしているところも良いと考える。

高田：デザインの基礎力は学校で身に付けて欲しいので、デッサンやベーシック・色彩関係などの基本授業が各学科で取り組んでいることは、今後も続けて欲しい。PCばかりにとらわれていると、発想力や想像力の乏しいデザイナー・クリエイターにしかならず、結局続かず辞めてしまうケースが多い。地味な部分ではあるが、根気強く指導をしてほしいし、学生にもこの大切さを伝える指導を続けて欲しい。

明間：産学連携を通して、自分の現状の技術力をより知る機会にしてもらい、企業からの指導や顧客からの意見を受け止める練習も学生のうちにどんどん行って欲しい。授業をきっかけに自らインターンシップなどに参加できるような企業とのつながりも考えられるようになると学生自身のキャリアアップにもなるのではないかと思います。

（7） 次回委員会開催日程に関して9月中旬を予定し、後日連絡する事になった。

以上

## 会議議事録

事業名	平成 27 年度 第 2 回 教育課程編成委員会
学校名	学校法人 新潟総合学院 新潟デザイン専門学校

会議名	第 2 回教育課程編成委員会会議
開催日時	平成 27 年 9 月 24 日 (金) PM 16:30 ~ PM 18:30
会場	新潟デザイン専門学校 2F 応接室
出席者	<p>加藤 一人 (新潟デザイン専門学校学校長)</p> <p>新保 悟 (ジャムルクルー株式会社 代表取締役社長)</p> <p>齋藤 秀一 (NPO 法人 アジアクラフトリンク 理事長)</p> <p>明間 芳規 (株式会社アイ・シー・オープロモーション 代表取締役社長)</p> <p>畑野 裕美 (教務部長/デジタルデザイン科学科長)</p> <p>齋藤 佳彦 (事務局長)</p> <p>小林 敏哉 (写真デザイン科学科長)</p> <p>吉富 克弥 (雑貨ジュエリー・デザイン科学科長)</p> <p>永井 啓司 (グラフィックデザイン科学科長)</p> <p>田中 圭 (イラストレーション科学科長)</p> <p>宝福 大志 (キャラクターイラストデザイン科)</p> <p>平出 恭子 (美術・工芸デザイン科) (出席者 12 名)</p>
欠席者	<p>高田 哲雄 (文教大学 教授)</p> <p>渡辺 淳一郎 (株式会社アイディ・東和 取締役営業部長) (欠席者 2 名)</p>
会議内容	<p>(1) 学校長挨拶</p> <p>学校長加藤より職業実践専門課程及び教育課程編成委員会設置についての趣旨再確認、年度始業時から現状の運営報告などを話し、開会挨拶とした。</p> <p>(2) 本日の出席者紹介</p> <p>学校長より本校委員が紹介された。</p> <p>企業等委員より自己紹介が行われた。</p> <p>(3) 今後の申請予定の学科</p> <p>学校長加藤より今後の申請予定の学科の説明を行った。</p> <p>(4) 上期学科活動報告及び教育実績報告 (コンテスト入賞・進路決定報告・産学連携実習報告など) 及び下期の主な活動予定等が各学科から報告がされた。</p> <p>①デジタルデザイン科 (畑野学科長)</p> <p>②グラフィックデザイン科 (永井学科長)</p> <p>③雑貨・ジュエリーデザイン科 (吉富学科長)</p> <p>④写真デザイン科 (写真科) (小林学科長)</p> <p>⑤イラストレーション科 (田中学科長)</p>

(5) 質疑応答・意見

新保：インターンシップでは、クライアントとの打合せから学生にも参加をしてもらっている。なかなか意見や思いを話せないようであるが、もっと話せるようになってもらいたい。そのために事前に何か指導できることがあるのではないかと、今回改めて考えさせられた。

齋藤：クラフトフェア等のイベントに学生たちが参加することは「売れるものにする」「商品として未熟な仕上がり」について気づく機会として、とても実践的な一歩だと考える。制作したものに値段を付けるという難しさもリアルに体験できて、売れるデザイン・売れる仕上がりを考える際にはとても大切な事である。今後も続けて欲しいし、このような場をどんどん作って欲しい。

明間：似顔絵の席描き(顧客の前で直接描く)の産学連携では、顧客のダイレクトな反応を学生たちが見れることで、時にはシビアな反応もあり、自身の技術力を振り返る機会になっているようで、回を重ねるごとにどんどん上達している様子が見えて嬉しい。学生たちも最初は戸惑いもあったようであるが、後半は積極的に声掛けもできるようになっている。上手くいかなかった場合は、自主トレを行っている学生も中には居り、今後が楽しみである。ただ、中には話し方や接し方が上手くいかない学生もいるので、現場での指導も勿論であるが、学校での制作指導の中で、現場を意識した状況で接客も含めての練習を重ねていきたい。

新保：仕事として「絵をかく」「イラストを描く」という事の意味や意義を産学連携を含めインターンシップの中などでも知ることができると、就職についての考え方ももっと幅が出てくるのではないかと。

明間：企業側ももっと学生と協力しながらできる事があるように考える。今後の課題にしていきたい。

(6) 次年度の委員会及び次回委員会開催日程に関して委員の都合を再確認し連絡する事になった。

以上